

# 鉄道橋梁の洗掘被害を未然に防止し、交通機能を確保

5か年加速化対策

国土強靱化

NATIONAL RESILIENCE

災害時の効果発揮事例

概要: 河川増水時の橋脚被害による橋梁流出を防ぐため、河床低下防止対策を実施。令和7年7月の台風5号では降雨により鉄道運休を伴う河川増水が発生したが、対策工事により橋梁流出を防ぎ交通機能を確保した。

対策名: 58-1 豪雨による鉄道河川橋梁の流失・傾斜対策<5か年加速化対策>【国土交通省】

- 実施主体: 東日本旅客鉄道株式会社 長野支社
- 実施場所: 長野県南佐久郡南牧村
- 事業概要: 河川増水時の鉄道橋梁の洗掘被害※1を未然に防止し、交通機能を確保するため、小海線の大門川橋梁における河床低下防止対策(根固工※2新設)を実施



- 事業費: 0.6億円(令和3~4年度)  
(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)0.6億円)

## 災害の外力、被害と効果:

令和7年7月14日~15日の48時間降水量は130.5mm  
(気象庁野辺山(長野県)観測所)を記録。  
⇒ 対策工事の実施により、洗掘被害は無く、地域の重要な交通手段である小海線の交通機能が確保できた。



5か年加速化対策における全国の既往最大規模の降雨により流失・傾斜の恐れがある鉄道河川橋梁の流失・傾斜対策の完了率(%)

R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R7年度(目標)
33	43	75	83	85

※1 「洗掘」とは、河川の激しい流水等によって橋脚の基礎周りの河床が削られる現象であり、橋脚の安定性が低下し、傾斜や倒壊の原因となる。

※2 「根固め」とは、水・泥流や波浪による洗掘から河床や堤防の基礎部などを防護することをいう。

